

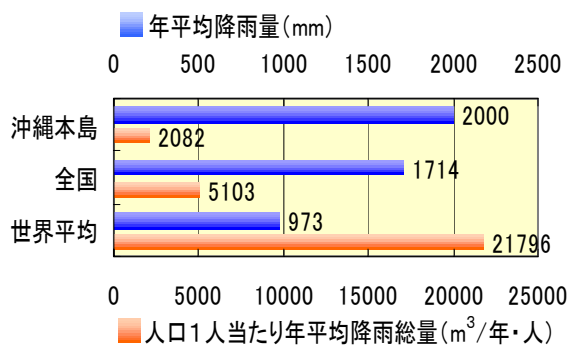
2 自然災害などに対する安全性の確保

- 沖縄の降水量は全国平均より多いものの、人口密度が高く、一人当たりの降水量は全国平均の半分以下と利用できる水の量が限られていることから、少雨傾向が続くと渇水になりやすい自然的・社会的条件を有している。特に沖縄本島では、人口や入域観光客の増加、生活環境の向上などに伴い、水需要は益々増大するものと考えられることから、多目的ダムの建設などにより安定した水資源を確保する必要がある。

また、一部の離島では、本島よりも更に逼迫した水需給となっていることから、ダムの早期建設など渇水対策を着実に実施していく必要がある。

年間降雨量の比較

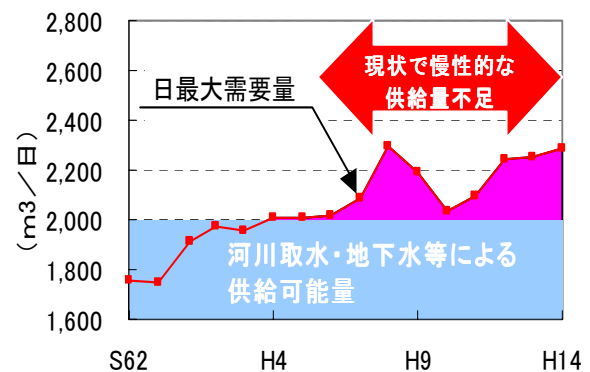
(1人当たり降水量は全国平均の半分以下)



資料:「日本の水資源」(国土交通省土地・水資源局)
「沖縄県統計年鑑」(沖縄県)
「日本気象表」(気象庁)

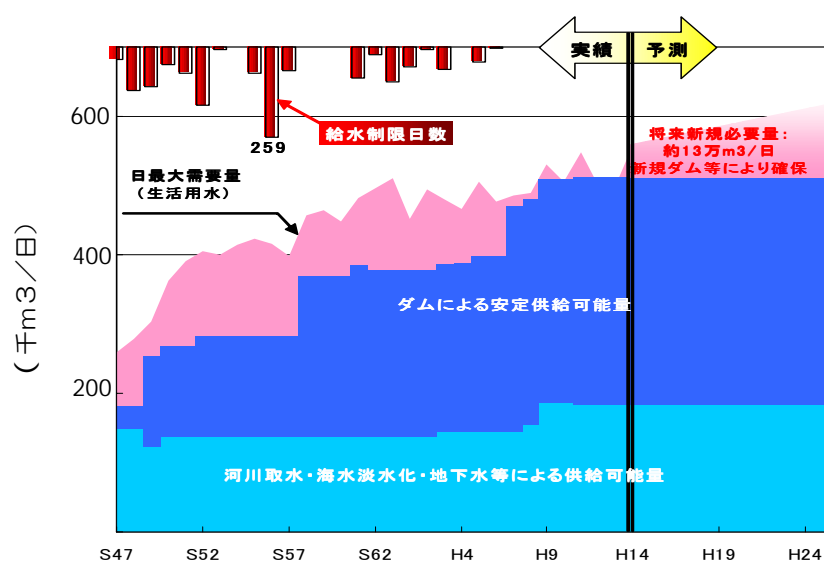
離島における水需給の現状と課題

((旧仲里村) (久米島))



資料:沖縄県

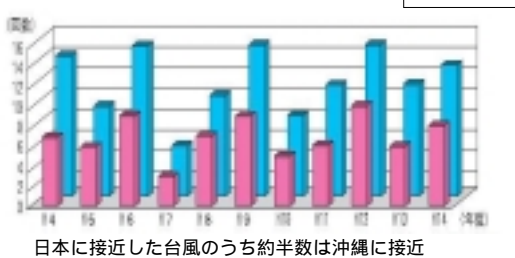
沖縄本島における水需給の現状と課題 (沖縄県企業局エリア)



資料:「水量記録資料集」(沖縄県企業局)、沖縄総合事務局

- 沖縄は、日本に接近する台風の約半数が通過する台風常襲地帯であり、急激な出水による浸水被害や、高潮や高波浪による海岸施設被害、強風による建物の損壊や電柱の倒壊など、大きな被害が度々発生していることから、防災対策の一層の充実が必要である。
 また、沖縄の周辺海域では、過去にも大きな津波災害に度々見舞われていることから、地震対策を強化する必要がある。

台風接近状況(台風常襲地帯の沖縄)



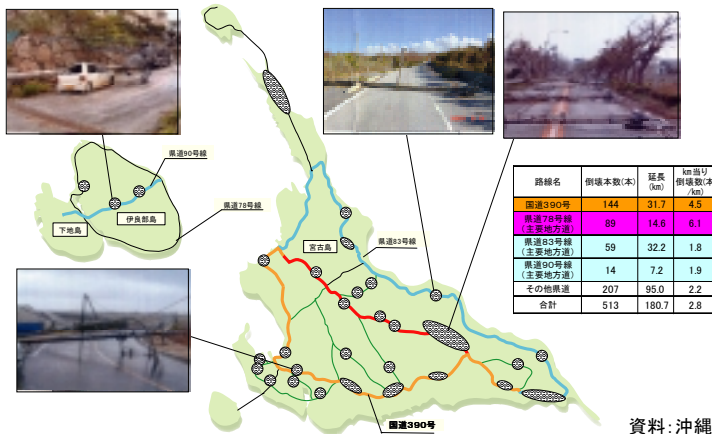
資料:沖縄気象台

近年の主な台風被害(台風による大規模被害の発生)

年	項目	災害の概況	災害の状況
2003年 平成15年	台風14号(9/11) (宮古島)	人的被害	人 97
		住宅被害	棟 1,320
		被害総額	百万円 13,190
2001年 平成13年	台風16号(9/6~16)	人的被害	人 8
		住宅被害	棟 1,344
		被害総額	百万円 4,172
1996年 平成8年	台風9号(7/29~30) 台風17号(9/18~20) 台風21号(9/27~30)	人的被害	人 211
		住宅被害	棟 4,650
		被害総額	百万円 18
1991年 平成3年	台風9号(7/27~28) 台風17号(9/12~13) 台風19号(9/26~27)	人的被害	人 237
		住宅被害	棟 8,823
		被害総額	百万円 11
1987年 昭和65年	台風5号(7/13~16) 台風12号(8/28~30)	人的被害	人 370
		住宅被害	棟 6,723
		被害総額	百万円

資料:「台風14号災害確定報告」(沖縄県)

台風14号(H15)による宮古島の被害(電柱倒壊の被害)



資料:沖縄県

津波による公共施設の被害



チリ津波による大浦橋の被害(1960年5月)

資料:「沖縄県災害誌」(沖縄県)

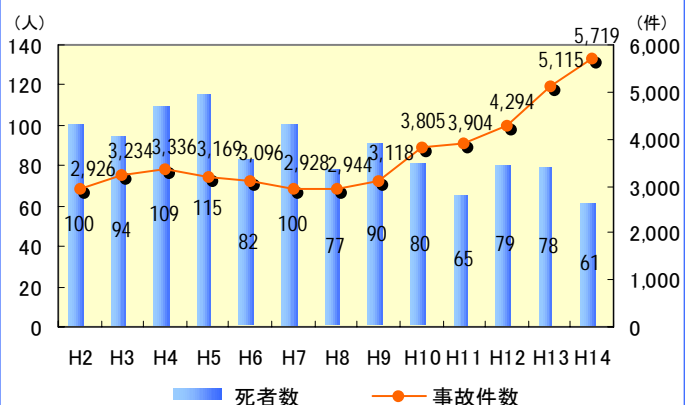
- 沖縄には東西約1000km、南北約400kmに及ぶ広大な海域が存在することから、船舶事故やテロの脅威に的確に対応していくことが求められている。また、増大する交通事故も大きな社会問題となっており、その対策の充実が必要である。

リーフ上に座礁し放置された船舶



資料:第十一管区海上保安本部

交通事故件数と死者数の推移(増加する交通事故)



資料:「交通白書」(沖縄県警察本部)